

## JAPANESE EVANGELICAL MISSIONARY SOCIETY

948 East Second Street  
Los Angeles, CA 90012-4317  
Tel: 213.613.0022  
E-Mail: [info@jems.org](mailto:info@jems.org)  
Web: [www.jems.org](http://www.jems.org)



### JEMS - 日本語部 支援 : NICHIGO-BU SUPPORT

- 日本語部とスタッフのためにお祈りいたします。
- 日本語部の働きのために 毎月 \$ \_\_\_\_\_ 捧げます。( \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 年まで)
- 今回 \$ \_\_\_\_\_ 捧げます。

Name \_\_\_\_\_ Phone \_\_\_\_\_

Address \_\_\_\_\_ City \_\_\_\_\_ State \_\_\_\_\_ Zip \_\_\_\_\_

E-Mail \_\_\_\_\_

チェックのあて先はJEMSとお書き頂き、Memo欄にNichigoとご記入下さい。

**JEMS P.O.BOX 86047 Los Angeles CA 90086-0047 電話: 213-613-0022**

※オンライン献金 <https://jems.networkforgood.com/projects/10875-minako> もご利用頂けます。



### 編集後記

西原 黎子

年若い者も弱り、かつ疲れ、壮年の者も疲れ果てて倒れる。しかし主を待ち望む者は新たな力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。イザヤ40:30-31

齢(よわい)を重ねていくと肉体の各機能が衰えてきているのを体感する。床に坐ると立ち上がるのにひと苦労する。つかまり立ちする支えがほしい、と。しかし90歳を超えた教会の婦人たちの立ち振る舞いには目を見張るばかりである。第一にほぼ毎週、礼拝にご自分で運転してこられる。第二に受付や食事作りや聖餐式の準備などのご奉仕を当然のごとくなされている。しかも皆さんそろって背筋をのぼし、美しく、神々しく輝いておられる。これこそ神様のなせる業と思わざるをえない。姉妹たちに、心洗われ、励まされる。共に主に活かされていることをひたすら感謝。



Happy  
Easter



## 栄光の望み

関西聖書神学校校長

日本イエス・キリスト教団神戸中央教会副牧師 鎌野 直人師

「この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。」  
(コロサイ1:27)

希望ということばはイースターにふさわしいものです。二千年前に起こったイエスの復活こそ、キリスト者の希望の土台だからです。イースターごとに私たちは空っぽの墓での「あの方はよみがえられました。ここにはおられません。」(マルコ16:6)のことばに励まされます。神がイエスを復活させられたのだから、神は終わりの日に私たちをも復活させてくださる、死の敗北は確かだ、という希望に立って、罪と死が支配しているように思える世界を生き抜くことができます。

復活の希望は将来のことに限定されるのでしょうか。キリストを死者の中からよみがえらされた方が、私たちの死ぬべきからだを生かしてくださること(ローマ8:11)はそんな先のことなのでしょうか。それとも、復活が保証する希望は、すでに始まっているのでしょうか。

希望は完全に実現してはいません。しかし、もう始まっています。「栄光」をキーワードに聖書を読み進めるとそのことが見えてきます。

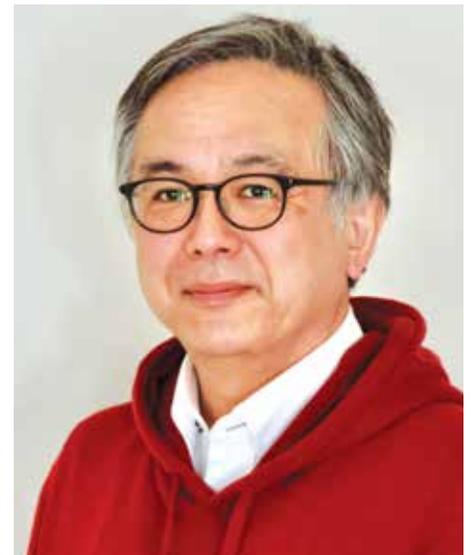
天地創造の際に神が人にお与えになったのは、「栄光と誉れの冠」(詩篇8:5)

です。栄光は、世界を治める王という使命と不可分です。そして、人が栄光を表すとは、神が造られたすべてのものを適切に統治し続けることを意味します。人が「神のかたち」に創造された(創世記1:27)とはこの使命を表しています。ですから、人こそが被造物にとっての「栄光の望み」でした。

しかし、人は神の命令に背きました。被造物との間に敵意とのろいが、対人関係には支配が、自らには死が必然となってしまう(創世記3:14-19)。「栄光の望み」は失せたのです。

そこで、神はアブラハムを選び、人が栄光を表すことのできる道の回復を始められました。彼の子孫であるイスラエルの民をエジプトから救い出し、彼らのご自身の栄光を住ませました。幕屋に満ちる栄光(出エジプト40:34-35)と神殿に満ちる栄光(1列王8:10-11)のゆえに、世界で栄光を表す道が開かれたのです。しかし、イスラエルは栄光を表すことはできませんでした。むしろ、彼らが神の聖なる名を汚したために、神の栄光は神殿から去っていきました(エゼキエル11:22-23)。

しかし、預言者を通して神が約束した神の栄光の帰還(エゼキエル43:1-5)はまず、ことばが人となって、私たちの間



に住まわれたことによって実現しました(ヨハネ1:14)。私たちはその栄光を見たのです。イエス・キリストこそ、栄光の望みです(コロサイ1:27)。そして、この栄光は聖霊として弟子たちの間に留まりました(使徒2:1-4)。こうして、義と認められた人々は、聖霊によって彼らの長兄であるイエスと結び合わされ、神から栄光が与えられ、神の計画を地上において進めます。神がすべてを益としてくださるからなのです(ローマ8:28-30)。

私たちはこのような希望の物語を生きています。私たちの間にいて、私たちを通して働かれるキリストが、今、栄光の望みとなってくださっているのです。そして、私たちは、神と共に住み、王として世々限りなく治める完成の日を待ち望んでいます(黙示録21:3; 22:5)。

# 被災地に愛と福音を送り届けたい

—THE BRIDGE コンサート活動の軌跡

JEMS協力宣教師 ポール・ゴンミン



私は韓国のクリスチャン家庭で生まれ育ちました。物心ついた時から日曜学校に通い、中学生になった時に洗礼の学びを始めました。みことばを学び、イエスキリストが自分の罪のために十字架で死んでくださったこと、そして、蘇られたことを心より信じるようになりました。13才の時にイエス様を主として受け入れる信仰の告白をして洗礼を受けました。

音楽高校と音楽大学でピアノを専攻し、音楽隊を経てK-popシーン(業界)に入りました。プロのミュージシャンになれた私の夢は、世界的な成功でした。数多くのアーティストと共に、放送局、ライブ会場、レコーディングスタジオで10年間一生懸命活動しました。

K-popでプロのミュージシャンとして活動していたある日、オンヌリ教会から「宣教プロジェクトで日本と一緒に行ってもらえないか」という連絡が来ました。それは2007年に日本で行われた宣教プロジェクト「ラブ・ソナタ」のプロモーションのためのイベントでした。私はこのお誘いを受け入れて日本に行きました。初めて行った日本は素敵な国で、何より私の演奏をよく聞いてくださった聴衆たちに魅力を感じました。

コンサートの後、日本の牧師先生から「日

本の宣教を助けてほしい」というお話をいただきました。お話を聞く中で日本にクリスチャンが本当に少ないことがわかり、韓国へ帰る飛行機の中で思わず「神様が必要としているなら私を日本に遣わしてください」と祈りました。しかし、帰国後は再びK-popの現場に戻り、日本に対する思いは次第に薄れていきました。

2013年6月、私は初めて被災地に足を踏み入れました。その時私の目に飛び込んできたのは、世界各国から被災者のために奉仕する方々の献身の姿でした。奉仕者の方々の姿を見て自己中心的に生きてきた自分を反省しました。そこにはコンサート用のステージがないばかりか、ちゃんとした楽器すらありませんでした。しかし与えられた条件の中、「寄り添う」ことだけを考えながら心を込めて演奏しました。すると、人生をあきらめたように見えた被災者の皆さんの目から涙が流れ始めました。その涙が主の涙であることを知り、その涙が私の涙になりました。そして、2007年、日本訪問の帰りの飛行機の中で日本のために祈ったことを思い出し、忘れてしまっていたことを深く悔い、「1か月に1回以上被災地を訪ねて演奏しよう」と心に決めて、行動に移しました。

同じ間違いを繰り返すことはしない、という強い思いとともに避難所、仮設住宅からの心の復興のためのミニストーリーがスタートしました。「1か月に1回以上被災地を訪ねて演

奏する」という初めて石巻を訪ねた際に心に決めたことを一年以上実行しました。しかし本当に被災地支援をするならもっと近くにいないかならぬと思うようになり、2015年、家族と共に日本に移住しました。東京で本格的に日本語を学び始め、継続的に被災地を訪れて演奏しました。すると私の活動がだんだんと人々に知られるようになりました。そして、日本だけでなくアメリカにいる人にまで伝えられていきました。2018年、私の思いに賛同してくれた韓国と日本のミュージシャン仲間たちと共に音楽を通じて被災地への架け橋となるプロジェクト—THE BRIDGEを結成しました。

2018年、LAのリトル東京にあるAratani Theaterで、そして、2019年にはRedondo Beach Arts Centerにて被災者支援のためのチャリティーコンサートを行いました。LAに住む駐在員、留学生などをはじめ多くの日本人と日系アメリカ人の皆さんが会場に来てくださり、3万ドル以上の募金が集まりました。その募金によって東北の被災地の皆さんにコンサートを届けることが出来ました。

2020年にはコロナによってTHE BRIDGEの活動もできなくなりましたが、パンデミックが終わるとともに活動は再開され、2023年3月、そして、2024年3月には東京と石巻にてTHE BRIDGEコンサートが実現しました。石巻のコンサートでは会場に集まった皆さんが涙を流す姿を見て、被災地の皆さん

んがLAの皆さんの愛によって大きな慰めを受け取られたことを確信しました。何年経っても昨日のこのように思い出される震災による心の痛みを忘れることはできるのでしょうか。本当につらい体験をされた被災地の皆さんの声を聞きながら、THE BRIDGEはこれから被災地での活動を続けていきます。

THE BRIDGEは令和2年1月1日に発生した能登半島地震の被災地での活動も始めました。2月2日に初めて能登に入り、それ以来1か月に1回程度で現地を訪問しています。2024年だけで8回現地を訪問することができました。能登では5月から避難所や仮設住宅で心の復興のためのコンサートをすることができるようになり、被災者の皆様にこれからも寄り添っていこうと思っています。

今後は、さらに多くの方々にTHE BRIDGEの活動を知っていただきたいと願っています。日本だけでなく、韓国やアメリカの多くの教会を訪ね、主が働いておられることを伝えたいと思います。ギデオンの300人の勇士のように、THE BRIDGEの祈りのサポーターが増えるように祈ってください。それによって被災地にもっと多くの愛と希望が届くことを願っています。

実は、被災地に愛と希望を届ける活動とともに、やりたいことがあります。それは、多くの日本人に福音を伝えることです。被災地と日本に本当に必要なのは、イエス・キリストの十字架と復活の福音です。

JEMSの協力宣教師として、福音を伝える使命を受け、賛美と証しを通して多くの日本人に私が受けた主の素晴らしい愛と福音を分かち合いたいと思っています。賛美とイエス・キリストの復活の福音が、日本列島に満ちあふれると信じています。

「隣人を自分自身のように愛しなさい。泣いている者たちと共に泣きなさい。」

主の御言葉に従って人生を歩みたいと思います。皆様、THE BRIDGEと私のためにお祈りください。

JEMSウェブサイト及びサポート先:

<https://www.jems.org/give/gong-min>

# 成長するJEMS

## 一日本に届く道を拓けたまえ

JEMS海外宣教総主事 リック 中馬

私は日本が大好きです。福音も大好きです。私が大好きな人たちへ福音を宣べ伝えるために、日本に宣教師を送ることも大好きです。

1989年に私が牧師になった時、35年後に私が海外宣教の新しい総主事となることなど考えてもみませんでした。しかし私の人生を振り返ってみると、神様がこの新しい役割を私に用意してくださっていたことを感じることができます。

私は鹿児島で生まれた父と東京で生まれた母のもとに生を受けました。私は二つの文化が交錯する家庭に育ち、子供の時には4年間日本に住んでいました。両親との会話はずっと日本語でした。私はサンディエゴのホーリネス教会(現在、SDJCC)で育ち、大学では言語学を専攻し、日本語を副専攻としました。これらの学びは日本の文化や言葉や人々を愛する大きな助けとなりました。一人の従兄を除いて、すべての親類はまだ日本に住んでいます。

私の過去の経験がやがて、私の仕事に役立つことなど考えてもみませんでした。宣教師たちが成している業を見聞きしては喜んでおります。ある者は教会を開拓し、ある者はカウンセラーとなり、他の者は賛美の歌を作り、喫茶店を営みながら伝道をし、里親となって奉仕する者もいます。

私のEDIM(Executive Director of International Missions)としての新しい役目は、日本に焦点をあて直接働きかけることです。今は初めてのJEMS日本事務所を創設することを目指しています。この事務所は将来の宣教師たちにビザを発行できるようにになります。また日本籍の人たちを雇い、JEMSスタッフとして働いてもらうことができるようになります。さらに大切なことは、日本にいる45人以上の宣教師たちによりよい環境を提供することができるようになるのです。



この夏、2チームが日本に行きます。一つのチームは、長崎に行き、もう一つは豊橋に行き、短期宣教に就きます。短期宣教は、若者に日本への関心を深めるばかりではなく、フルタイムの宣教師となる神様からの召命を頂く可能性を秘めています。

今日本に遣わされている宣教師たちやこれから日本に遣わそうとする宣教師たちのことを思うとき、ローマ書の10章14、15節のみ言葉が思い起されます。「ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。遣わされないうで、どうして宣べ伝えることができよう。『良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか!』と書いてあるとおりです。

たくさん宣教師たちが生まれますようにお祈りください。もし日本のために仕えるお気持ちがありますなら、どうぞ[www.jems.org/give/japan-general-fund](https://www.jems.org/give/japan-general-fund)にご協力ください。

## JEMS 日語部

JEMS日語部コーディネーター 藤本 三奈子

### 第76回JEMSマウントハーモン修養会

2025年6月29日(日)～7月5日(土)

日語部講師: 鎌野直人牧師 / 関西聖書神学校校長 日本イエス・キリスト教団神戸中央教会副牧師

テーマ: 「主よ、あなたは私の希望。(詩篇71:5)」

申込み: <https://www.mounthermon.org/events/jems>

講師の鎌野先生より「北米と日本、そして世界の各地で日本人のために祈り、働いておられるみなさまとともに、聖書のみことばに耳を傾けるとき、そして交わりののときを楽しみにしています。」とメッセージを頂いています。皆様のご参加をお待ちしております。

問い合わせ: [minakoF@JEMS.org](mailto:minakoF@JEMS.org)

